

近畿圏の学校図書館実務者へのインタビュー 記録¹

日時：平成 25 年 6 月 15 日 16 時～19 時

場所：国立国会図書館関西館 共同研究室

参加者：(所属は実施当時のもの。)(各校の概要は報告書の第 3 章を参照。)

a 氏 (私立共学中学 D 校 司書教諭)

b 氏 (私立共学中高一貫 H 校 探究科教諭)

c 氏 (私立共学中高一貫 H 校 司書教諭)

d 氏 (私立男子中高一貫 J 校 司書教諭)

e 氏 (私立男子中高一貫 J 校 学校司書)

青山比呂乃 (私立共学 IS・中高一貫 G 校 司書教諭) ファシリテーター プロジェクト研究会委員

橋詰秋子 (国立国会図書館国際子ども図書館 児童サービス課企画推進係) 事務局

高宮光江 (国立国会図書館国際子ども図書館 児童サービス課企画推進係) 事務局

堤真紀 (国立国会図書館国際子ども図書館 児童サービス課企画推進係) 事務局

【導入】

青：今日の話の確認もこめて、お名前と、コレクション形成が今回のテーマでもあるので、選書についてどの程度担当されているか、どのような関わりを持たれているのか等を含めて自己紹介から始められたらと思います。

a：[私立共学中学 D 校]で司書教諭をしています a です。ここにいらっしゃる方の中で、おそらく一番選書に関わりが薄いのではないかと僕自身思っています。直接的に手を下すことはあまりないですが、コーディネートのようなことは割とよくやっているかなと思います。勉強させていただきたいと思いません。よろしくをお願いします。

b：[私立共学中高一貫 H 校]の b です。今年の春から館長という肩書ができました。色々な細々としたことの取りまとめ役なのですが。選書ということでは、探究型の授業をしていますので、生徒がこんなテーマを(自由研究の主題に)選んだと分かればそのテーマの本を買う、また生徒が使いそうなテーマの本があれば買うというように、ノンフィクション系の本は必ず私の目を通ります。フィクション系は、これから自己紹介します c が目を通してしています。

c：司書教諭をしています c です。うちの学校では、見計らいをしていますので、一通り購入見込みの本を本棚に並べて、ノンフィクションは b 先生が目を通し、フィクションは私が目を通して選書をしています。お互いで「これはいる、いない」と話をして、意見が合わない場合は他の方にも聞いて、あと 2 人スタッフがいますので、4 人で選書をしています。よろしくをお願いします。

青：[私立共学 IS (インターナショナルスクール)・中高一貫 G]です。中高なのですが、幼稚園から高校まで英語で授業をしているインターナショナルスクールが併設されていて、両方の学校が使っている図書館の、日本語資料担当の司書教諭をしています。資料的にもややこしくて、(他校と)比較するのが難しいのですが、(今回の調査の中では)中高の日本語資料に関する部分だけを対象にさせていただきました。開館当初から居座っているので、買っている本は全部自分の記憶にあるのですが、それが良かったのか悪かったのか…、今回の(学校図書館事例調査及び学校図書館データ分析調査の)結果を面白く見えています。お願いします。

¹ 本記録は、報告書『学校図書館におけるコレクション形成：国際子ども図書館の中高生向け「調べものの部屋」開設に向けて』の「5.2 近畿圏の学校図書館実務者へのインタビュー要約」の要約前のインタビュー会話記録である。分かりやすくするため、事務局が見出しや補記を付記している。

e: [私立男子中高一貫 J 校] の司書の e です。総合的な学習の時間で (学校図書館が) よく使われるので、授業に必要な資料は、生徒や担当の先生に確認して、司書が随時発注しています。見計らいの方は、d から詳しくご説明します。リクエストで困ったものがあれば司書同士で話し合っって選び、校内からクレームがつきそうな資料の場合は、図書館運営委員会という先生方の組織に諮るといふ形を取っています。(今のやり方には) 長所短所の両方があるなと感じています。

d: [私立男子中高一貫 J 校] の司書教諭の d です。選書という意味では、うちは図書館のスタッフが沢山いるので、とにかく“3人がOKが出したら買う”という3票ルールで、私達が図書館の担当になって3年目位からやっています。なので、誰かの選書権が強いということはありません。[私立共学中高一貫 H 校] と同じように、見計らいでの現物選書をやっています。強い思いがあっってどうしても入れたい資料や授業で使う予定がある資料の場合は授業担当者の一票が強くなることもありますが、それ以外には基本的に、スタッフの誰もが同じレベルの一票を持って選書をしします。うちで一番大きい金額が動くのが、店頭選書です。予算的にも一回に20~30万円使います。毎学期 (昔は3票ルールでやっていましたが、最近では) 2人で (書店に) 行って選書をしています。2人共OKなら基本的に購入で持って帰り、そうでなければ (見計らい扱いにして) 持って帰って検討します。だいたいの本は自分が目を通したものであるので把握しているのですが、リクエスト本に関してはリクエスト後すぐに入るので「あ、こんな本が入ったんだ」と思ふこともあります。

青: それでは早速本題に入りたいのですが、まずは、本題が何だったか確認しておきます。国立国会図書館国際子ども図書館では、平成27年度に、中高生向けの「調べものの部屋 (仮称)」を設置する計画があります。(国際子ども図書館職員は、) 中高生を対象とした読書・調べものサービスについて、情報が少なく、実態がよく分からないという問題意識を持っていたそうです。高校生は大人向けの本をそれなりに読みますが、その高校生と (児童書を読む) 小学生の間にいる中学生が読む本は何か、ということが (国際子ども図書館の職員が) 主な疑問点です。

今日のインタビューにはいらしていませんが (プロジェクト主査で立教大学の) 中村百合子先生を中心に、このプロジェクトでは、学校図書館を積極的に活用されている学校に協力をお願いして、学校図書館のコレクション形成に関する調査をしています。本日の関西圏のインタビューに集まってもらった方は、私学の実務者ばかりですが、(後日実施する) 上野のインタビューに集まる方には、公立校の方もいらっっしゃいます。

【所蔵が多いタイトルを見て】

青 事前にお渡しした「学校図書館のデータ分析調査」の中間報告について、なるほどと思ったところや、これはピンとがずれていると思ったところなど細かい事でも良いので、ご指摘いただければと思います。

d: (次ページの [インタビューで提示した「表 所蔵が多いタイトル (中間報告)】を見て) これは、そうだろうなという結果ですね。皆さんもそう思ったのではないかと思ふます。『13歳のハローワーク』がトップになっていますが、これは (数年前に) 2~4冊寄贈がありましたよね。うちは2冊入れたと思ふます。残りは古本市で売ったか、公共図書館にあげるかしました。おそらく各校にも寄贈があったのでは?

橋: 幻冬舎から寄贈ということですか?

d: (出版社の) 幻冬舎からか、(著者の) 村上龍さんから分からないですが、どこかからの寄贈でした。

e: 複本になるタイトルは、複本にしたいという意志が働かず (複本に) なっている場合と、(複本が必要で) 敢えて買っている場合の両方があります。

(参考)インタビューで提示した「表 所蔵が多いタイトル(中間報告)」

※インタビュー調査では、学校図書館の蔵書データの分析調査(報告書第4章)のインタビュー実施時点での中間報告を参加者に提示した。

※本表の内容は、報告書第4章の表4-3と同様である。分析調査の対象館13館分の蔵書データを計量的に分析し、所蔵館数が多いタイトルの上位を集計した結果である。

所蔵館数	所蔵冊数	書名	著者	出版社	出版年
13	25	13歳のハローワーク	村上龍	幻冬舎	2003
13	21	きみの友だち	重松清	新潮社	2005
13	14	素数ゼミの謎	吉村仁	文藝春秋	2005
12	28	いのちの食べかた	森達也	理論社	2004
12	24	沈黙の春	レイチェル・カーソン	新潮社	1974
12	22	世界を信じるためのメソッド	森達也	理論社	2006
12	18	ぼくを探しに	シルヴァスタイン	講談社	1977
12	16	化石	ポール・D.テイラー	同朋舎出版	1991
12	14	魔法使いハウルと火の悪魔	ダイアナ・ウィン・ジョー	徳間書店	1997
12	13	鬼の橋	伊藤遊	福音館書店	1998
12	12	弟の戦争	ロバート・ウェストール	徳間書店	1995
11	41	あのころはフリードリヒがいた	ハンス・ペーター・リヒ	岩波書店	2000
11	29	塩狩峠	三浦綾子	新潮社	1968
11	24	西の魔女が死んだ	梨木香歩	新潮社	2001
11	22	クローディアの秘密	E.L.カニグズバーグ	岩波書店	2000
11	21	黒い雨	井伏鱒二	新潮社	2003
11	21	ごんぎつね	新美南吉	講談社	1986
11	19	ことばの力	大岡信	花神社	1978
11	19	盗賊会社	星新一	理論社	2003
11	19	高村光太郎	福田 清人	新潮社	1984
11	17	詩のころろを読む	茨木のり子	岩波書店	1979
11	17	黒い兄弟	リザ・テツナー	あすなる書房	2002
11	14	14歳からの哲学	池田晶子	トランスビュー	2003
11	16	声に出して読みたい日本語	齋藤孝	草思社	2001
11	16	ドリームバスター	宮部みゆき	徳間書店	2001
11	16	世にも美しい数学入門	藤原正彦	筑摩書房	2005
11	16	ダレン・シャン	Darren Shan	小学館	2002
11	15	ごみから地球を考える	八木昭道	岩波書店	1991
11	15	ローワンと魔法の地図	エミリー・ロッダ	あすなる書房	2000
11	15	ダレン・シャン	Darren Shan	小学館	2002
11	15	トラベリング・パンツ	アン・ブラッシュェアーズ	理論社	2002
11	14	ダレン・シャン	Darren Shan	小学館	2004
11	14	東京が燃えた日	早乙女勝元	岩波書店	1979
11	14	鉄道員	浅田次郎	集英社	1997
11	14	ダレン・シャン	Darren Shan	小学館	2002
11	14	夜明けの覇者	Darren Shan	小学館	2003
11	14	坂本竜馬	古川薫	小峰書店	2000
11	13	種をまく人	ポール・フライシュマン	あすなる書房	1998
11	13	みんなのなやみ	重松清	理論社	2004
11	13	グッドラック	アレックス・ロビラ	ポプラ社	2004
11	13	風が強く吹いている	三浦しをん	新潮社	2006
11	13	ダレン・シャン	Darren Shan	小学館	2001
11	13	夜の山道で	星新一	理論社	2002
11	13	南総里見八犬伝 第1の物語	滝沢馬琴 原	偕成社	2002
11	13	手塚治虫がねがったこと	斎藤次郎	岩波書店	1989
11	13	宇宙の男たち	星新一	理論社	2004
11	13	アブダラと空飛ぶ絨毯	ダイアナ・ウィン・ジョー	徳間書店	1997
11	12	のはらうた	工藤直子	童話屋	1987
11	12	100万回生きたねこ	佐野洋子	講談社	1986
11	12	一億百万光年先に住むウサギ	那須田淳	理論社	2006
11	12	いつでも会える	菊田まりこ	学習研究社	1998
11	12	裁き司最後の戦い	ラルフ・イーザウ	あすなる書房	2001
11	12	センス・オブ・ワンダー	レイチェル・カーソン	新潮社	1996
11	12	温室デイズ	瀬尾まいこ	角川書店	2006
11	12	ひとしずくの水	ウォルター・ウィック	あすなる書房	1998
11	12	ジョナさん	片川優子	講談社	2005
11	12	14歳からの仕事道	玄田有史	理論社	2005
11	12	さもないと	星新一	理論社	2003
11	11	天と地を測った男	岡崎ひでたか	くもん出版	2003
11	11	ローワンと黄金の谷の謎	エミリー・ロッダ	あすなる書房	2001
11	11	セカンド・ショット	川島誠	角川書店	2003
11	11	包帯クラブ	天童荒太	筑摩書房	2006
11	11	こどものためのドラッグ大全	深見埴	理論社	2005
11	11	数え方の辞典	飯田朝子	小学館	2004
11	11	ドリームバスター	宮部みゆき	徳間書店	2003

d:『13歳のハローワーク』は、職業を調べるための本としてはちょっと使いにくいですが。読み物として読むには良いのですが。

青:寄贈といえば『日本の嵐』もそうですね。

皆:そうそう。

d:『日本の嵐』は確か4冊くらい寄贈されたような。だから市立図書館にあげた記憶があります。

青:(寄贈本を)全てコレクションに入れるとは限らないですね。複本になったタイトルには、寄贈のケースもあるということですね。

e:紛失して買い直した資料で、不明本のフラグを立てているけれど、データはそのままにしている場合もあります。

青:何でも思いついたことを言っていて、そこから話題が広がればと思います。(調査結果には)それぞれの学校の事情が反映されていると思います。良い悪いではなく、特徴的な部分が表れていたり、「なるほどそうだったか」みたいなことがあれば、教えてください。

b:このリストは、よく読まれている資料のリストだと思いますか?

e:例えば、『きみの友だち』は、学校図書館で読書会をしたから複本を沢山持っているものです。

d:そうですね。ただ、生徒に勧めても「よかった」と言ってくれることが割と多い本です。登場人物が小学生から大学生までいるので、生徒と世代が合うんですね。だから生徒は、勧められて読んでみて「よかった」と言うのだと思います。

e:『沈黙の春』は、うちの学校の課題図書です。『鬼の橋』も作文の課題図書ですし、『あのころはフリードリヒがいた』『塩狩峠』もそう。課題図書は、学校図書館のコレクションに大きく影響しますよね。

青:教材に入っているとやはり。

e:生徒が好きで読んでいそうな本は、『魔法使いハウルと火の悪魔』『ダレン・シャン』、あと星新一も好きだと思います。

c:(同じタイトルでも)文庫とハードカバーの両方を揃えていけば、冊数が増えますよね。

b:(リスト中の)ノンフィクションのタイトルを見る限り、生徒のレポートの参考文献にはこれらの本は入ってこないと思います。読み物系の本が多いので、調べものに適した本かという点では、違うかもしれない。

青:調べもの目的では「このテーマだと絶対この本を読むべき」という本がたぶん存在していると思いますが、それは(このリストには)出てきていないかもしれませんね。

d:(リストには)古い本が多いという印象。ここまで古いと生徒はなかなか手に取らないでしょうね。所蔵数の多さと、生徒が手に取る本はリンクしていない気がします。(所蔵数ではなく)利用のされ方、例えば貸出数の上位タイトルを見る方が面白いかもしれません。

青:貸出でよく動いた本をリストにするということですか?

d:使われた本の方が、本当に調べものに役立つタイトルが見えやすいと思います。蔵書数で見ると、図書館としては保存しておきたい、過去のデータとして持っておきたいという考えで持っている本が含まれてくると思います。こうして蓄積された本は、結果的に、どこもが持っている本になってしまう。

青:皆さんの学校図書館は、予算的にも波がなくコンスタントに資料を買っていると思います。所蔵資料をどうやって更新していくか、という問題があると思うのですが。

d:最近開校した学校の人から、(絶版が多い)基本図書を集めるのが大変だったと聞いています。うちの学校も、調べものを始めた時は使える資料がなくて、公共図書館に助けられました。

青:それは団体貸出で、ということ?

d:そうです。月に200~300冊くらい貸してもらったりして、「[私立男子中高一貫J校]のための公共図書館じゃないですよ」と言われたこともありました。それくらい助けてもらって、なんとか回っていた感じでした。

e:レファレンスや調べもので、オールマイティに使える百科事典のような資料とは別に、調べものが進んできた時に使う資料がありますが、その資料はかなり個別的になりますよね。特に高校生は個々(のテーマ)に深く入っていく(資料が必要だ)と思います。中学生はもう少しゆるやかかもしれません。

【中学生向けの資料について】

青:中学生の調べにちょうど良い本は、どの程度出版されていると思いますか。

b:中学生向け出版物は、実際に中学生が調べものをする回数が少なく、結果としてマーケットが小さいため、あまり出版されていないと思います。小学校向けの調べものの本はある程度買われるので、採算ベースに乗っていると思いますが。中学生向けで、情報量があって分かりやすい本は、正直言ってほぼ無いです。テーマによっては全く無い。例えば、広告、テレビ、インスタントラーメンとか(の本は無い)。

c:コンクリートとか。

e:小学校高学年向けの本はあっても、その上は(大人向けの)一般書になります。中学生向けの本が抜けているというのが正直な実感です。うちの学校の書架も、易しい児童書と一般書の間に差があります。(学校図書館に)中学生にとって魅力的で読めそうな本がどれだけ並べられているかと言うと、難しいところですよ。

d:『よりみちパン!セ』シリーズ(イーストプレス社)などは、確かに中学生ターゲットで良い本ですが、(読み物なので)調べるという点では使いにくいですね。

b:雑学本が一番動きますね。それから、ぐっとやわらかくしたPHP社の『〇〇の大研究』シリーズも。これらの中間の本があるといいと思います。

青:字ばかりの本か、視覚的なもの(図表)が沢山入っている本か、という違いも(中学生向けの本を選ぶ基準として)大きいですね。

b:調べ学習をする時は、文章形式の『よりみちパン!セ』では資料にならないです。なぜなら、生徒が、自分自身で、長い文章から自分に必要な部分を切り出すことがかなり難しいから。最初から切り出してある本でないと、(中学生が使いこなすのは)大変かなと思います。

d:そういう意味では、生徒には大人向けの統計資料を読みこなす力がなかったりしますね。読みこな

す方法をきめ細かく教えないと、生徒が腑に落ちる所までいかないです。(教えるのは) すごく手間がかかるし。中学生は個人差も大きいので、教材となる資料を準備する時にターゲットを絞るのが難しいです。

b: 新書を渡すと、黙って読んでいる子もいますしね。

青: 中学生だから新書が読めないということはないですね。(読解力の個人) 差が激しいというか。中学生の方が、(知的要求が低く) 引いてしまっている高校生より、好奇心に火がつくと熱心になります。大人向けの本であっても、(その子に) 上手くはまれば、本当に使える本になることもあります。

d: 出版社側の事情があるのでしょうか、1冊の中に色々なテーマ(の情報)が入っている本が多くて、そうした本は、使う側としては、個別のテーマが切り出しにくく使いにくいですね。複数テーマが入っているからその本を複数冊買うのかということ、そんなにいららないなと思ったりします。

【中学生の調べものと知の体系について】

e: 私たちが欲しいと思う本はなかなか出版されないですし、生徒から見ても自分の知りたい事がピンポイントに載っている本はないので、(知りたい事を) いかに見つけ出すかとか、(自分の調べるテーマと) 関連がある本かない本かを判断する力が必要になると思います。(適した本を揃えることと情報活用能力を育成することの) 両方をしていかないとだと思います。白書類は表が不親切ですが、読み方をレクチャーして「これは僕のテーマと関係がある」と分かれば使うと思います。(教えるのは) 難しいですけれど。

b: 子どもはストレートで、オーロラを調べたいなら、本の背表紙に「オーロラ」と入っていないと駄目なんですよね。「天気」とか「気象」と書かれた本は開かないんですよ。「あるよ」って言うだけでなく、本を開いて見せないも駄目ですよ。

皆: そうですね。

青: 図書館の OPAC で本を探す場合も、(生徒は) 単語を入れて書名でヒットしなければ駄目だと思いますよね。

c: 生徒には「違う本ばかり出る」みたいに言われますね。

青: (そうなった場合) そこをもう一歩進めるために(教員から) 色々工夫するよう指導されるケースと、よく分からないでそのままスルーしてしまうケースがあると思います。

d: (スルーしてしまうと) 生徒はついネットで調べてしまいますよね。情報をピックアップしやすいし。

b: ポプラ社の『ポプラディア情報館』。あの本が、中学生の興味のあるレベルで、500種類くらいのテーマで出版してくれるといいですね。

皆: 一般書みたいな装丁でね。あと、もっと軽くないと。重いのは駄目で、持って帰れるサイズで。

青: a 先生どうですか？

a: 中学生だけを対象としたノンフィクションで、調べ学習に向いている資料は本当はないと思います。うちの学校では、調べ学習の内容(テーマ)をある程度決めていて、テーマを絞って資料を集めているので、集めやすいと言えば集めやすいですね。つまり、その分野を網羅的に集めればいいので。ただ、ありがたいことに、最近では他の教科でも図書館を使うようになってきたので「これじゃ駄目だ」と思って、一般書の中で『〇分でわかる〜』とか『2週間でわかる〜』とかの本をとりあえず集めています。

それで全ての分野を網羅できるようにしてから、生徒が興味を持ったり、授業で取り上げられる分野については、もう少し深められる本を用意しようと思っています。先ほど話題に上がったコンクリートでも、日刊工業新聞社の本がありますよね？どんなマイナーな分野だろうと、メジャーな分野であろうと、図書館としてとりあえず網羅した後で、授業とか個々の取組みで深められるようにと、ターゲットを絞って集めていくと良いのではないかと思います。

e: “網羅” というのはその通りですよ。以前、塩見昇先生の本を読む勉強会をやったのですが、図書館は知の体系に触れられる場であると（書いてありました）。0類から9類までの様々な分野の本が並んでいて、そこを歩くと一通り背表紙が目に入って、（生徒は）こんなものがあるんだと無意識に吸収するのだという考えをされていて。それが正しいかどうかはともかく、そういう感覚はありますよね。図書館自体が“百科事典的な装置”というのは、[私立男子中高一貫 I 校]の先生が（学校図書館事例調査の）コメントに書いておられましたが、視覚的にそういう装置の中に利用者が入り込んで動くというような見方があるように思います。

青: デジタル情報だけに流れてしまうと、オーロラなら「オーロラ」といった単語で調べて、単語から見えてきたものしか見なくなりがちです。中学生は、体系は見えてないし、物事の関連も見えていない。概念がどうなっているかや概念同士のつながりが見えていない状態で、ピンポイントで「オーロラ」にいつてしまった子には、概念の広がりや他の概念とのつながりを指導しなければならないと思います。そういう意味で、それが見える装置としての図書館の体系や（図書館での）本の並び方があると思います。

d: これまでに、ちょっとだけやって、あまり深くやらなかった事なのですが、概念の上位下位関係の話を授業に組み込み始めています。例えば、生徒に「オーロラ」の上位概念を意識させると、生徒は少しだけ本を探せるようになると思います。それができると、ネット情報も使いこなせるようになりますし。

青: 『ポプラディア情報館』のような（内容が）体系化されている本は、図書館員は「この本には、このテーマも入っているだろう」と判断して使っていますよね。その判断の基になっているスキルを、どうやって生徒に分からせるかということですね。

d: それができるようになれば、一般書でも、自分が興味のある部分を（本の中から）取り出して読めるようになる気がします。本を紹介する時は、一般書も混ぜて中高生が興味を持てるようにしていますが、やっぱり、（中高生が）好きなのは『図解 牢獄・脱獄』（新紀元社）のような一般書です。（紹介すれば）中1の子でも喜んで予約を入れます。ただ、（生徒が）その本にたどり着けないと、本は借りられないし読まれないです。

b: 刑務所は人気ですよ。

皆: 人気、人気。アナザーワールドを覗いてみたいのでしょうね。

青: 中学生が知りたがるテーマは、現場にいるとある程度予測がつきます。ただ、それを（生徒が）調べるテーマにするとすると、「うーん」と考え込んでしまう感じです。毎年生徒が言うてくる事自体はとても面白くて、ある意味、（調べをサポートする）私たちにとってはチャレンジング（な事になる）というか。

d: (学校では) 調べのきっかけ作りにイメージマップやマインドマップを作らせていますが、中学生は言葉を結び付けられない、だからマップが書けないです。でも、生徒は知りたいものを持ってない訳じゃない、心の中にある知りたいものをどうやって表に出していくか、そのテーマが体系表やNDCがどうつながっているかが分からないのです。「調べものの部屋」には、彼らが知りたいものと図書館の体系とのつながりが見えるような仕組み（体系表）があるといいなと思います。

青：高校生になっても、そこら辺が放置されていて、ごまかしながら高校生になってしまった子がいますね。そういう事は、なんとなく経験則的に分らせるのではなくて（きちんと教えたい）。言語化されたシソーラスのようなものがあると色んな意味で役に立ちますね。

d：そうですね。どこの学校でも子どもたちが興味のある事はあまり変わらないでしょうし。各校が（各自でシソーラスを）作るとなると大変ですが。

橋：例えば、「刑務所」という言葉を含む体系表を作るという事ですか？

d：そうそう。彼らが普段使う言葉で体系化してあったら。

橋：中学生が選ぶような言葉を使った、上位概念や下位概念を示すシソーラスですね。

d：「刑務所」に行くには、まず法に反しているから「法」が関係する。NDC は、ちゃんとそうなっていますよね。それで、「犯罪」とか「麻薬」とか刑務所で作成した「工芸品」とか、色々な言葉とのつながりがあると思う。体系表のイメージは、「新書マップ」(<http://shinshomap.info/>) ですね。

e：言葉と言葉の関係性に気付き始めるのが中学生だと思います。自分の見方と他人の見方が違うと気づいて悩み出す時期です。反抗期になってもがいている子も多く、自分と他人が違うことを体感覚で分かり始める時期でもあります。そういうのを利用して、世の中に自分と違う意見があることに触れてもらう良いチャンスだと思います。自分と他人の2者関係から始めて、世の中にある多者関係につないでいく。彼らは、リアルな世界でもそういう発達段階にいますが、それと同じように、本の世界にも他者関係がある事が分かってきます。小学生で教える NDC は、9＝文学とか記号とテーマの1対1対応までのところが多いです。中学生は、自分のテーマがいろいろな分類に含まれている、一つの分類にカチッと収まっていないことが分かってくる年代だと思います。

青：小学校は、正しい答えがあるという前提で学校の学習は成り立っていて、先生が正しい事を教えている感じ。答えが一つという感覚です。中学生でも1年生だと、複数の資料を見比べて内容が違っていると「どっちが正しいのですか」と聞いてきます。そこが、大人になると「こういう面ではこの説もあり」とか「今の段階はここまでしか言えない」と捉えられるようになります。高校に入るまでは、調べてちゃんとした結論が出ないと、調べが失敗したと思ってしまいがちです。この話は、そこら辺とも関わることかなと思います。

別の言い方をすれば、“資料評価”ですね。生徒は「この資料はこういう面では使える」という目では資料を見られない。色んな資料に色んなことを書いてあって嫌だと思ふか、それら色んなことを整理してまとめていけるようになるか、（中学生は）その中間地点にいると思います。それをどのように指導するか、が問題です。

教科の授業では、どういう形で図書館を使うかにもよるので、クイズ的に正しい一つの答えを見つけるといった目的で図書館が使われる事もあります。が、図書館で調べるといった事は、本質的にそうではない方向を向いていると思います。教師を含め、学校の中で、そのことがどれくらい認知されているか、は疑問ですが。

a：これは難しい問題だと思います。「世の中には色々な本があって本同士が矛盾していることもあるよ」という事が理解できるのは、私の感覚では、中学3年生くらいからだと思います。うちの学校では、基本的に小学校の調べ学習の延長線上のちょっとレベルが上がったものを行っています。中3くらいいいから、少しずつ、異なる意見があつて自分のオリジナルの意見を出していきましょう、という事をやっています。非常に過渡期な段階なので、図書館として、それをどうサポートし蔵書構成としてどう支援するかは難しい問題です。さっきの話に戻りますが、やはり網羅的な蔵書構成にならざるを得ないかと。一般書、啓蒙書も含めてとりあえず（全分野を）網羅をして、その中で、教材として取り上げられる部分とか、指導の中で深められる部分、生徒が興味を持つ部分はもう少し深く資料を置くというのが良いので

はないかと。もちろん、学校によって力点は変わってくると思います。とりあえず全体を網羅してから、いくつか核があるという状態が良いのではないかと。おそらく、皆の学校がそうすれば、最大公約数(的なコレクション)が見えてくると思います。

【生徒がよく取り上げる自由研究テーマ】

b: [私立共学中高一貫 H 校]では、蔵書構築には2つ方針があります。1 キーワードには最低3冊揃える事。それから、1パーミルの生徒の要望にも応える事です。1パーミルは0.1%。生徒が2,000人いますから、そのうち2人が欲しいと言ったら必ず買う。1パーミルは感覚的なものですが。

統計を取っているのですが、中学生からは(自由に選ばせても)自由研究テーマが1,000個も出てこない。だから、最大1,000種類用意すればOKだろうと思っています。つまり、1000のテーマを3冊ずつ用意しておけば大丈夫と思っています。本当かどうかわからないけど。毎年出てくるテーマが必ずあります。例えば、自動車、色、地震、コメ、映画、栄養、チョコレート、ネコ、野球、葉、コンビニ、サッカー、天気、方言、味覚、犬などです。最近ではこれらのテーマのことを“ありがちテーマ”と呼んで(笑)、「ありがちテーマはつまらないから選ぶな」と生徒に向かって言うようになりました。他の学校はどうですか?今言ったテーマは出てきますか?

a: うちでは、[H 校]のような自由な調べものはやらないのですが、似たような事例では、キーワードを自由に考えさせるという授業をしています。NDCを教える時に、(うちは2次区分までしか取っていないので100分類ですが)まずその中から自分の好きな分類を3つ選ばせる、そして、その分類が付いている資料を持ってこさせる、さらに、この100分類に無いテーマを3つ考えさせる、という授業をしています。その授業では、生徒が無いと思って出してきたテーマについて「実はこの分類に入っているよ」と教えているのですが、中学生が考えるテーマはやっぱり決まってきますね。

b: 女子が調べるテーマに「紅茶」を選んでくると、ピッと血圧が上がりますもんね(笑)。「またか!」みたいな。「チョコレート」の方がもっと上がりますけど(笑)。

青: うちでは、高1の比較文化という授業で、生徒が各自テーマを一つ決めて調べ学習をやらせているのですが、テーマを思いつけない子が多いです。普段から今挙げたようなテーマにしか関心がない子がいます。でも、上手く持っていけば面白いものができる事もあります。中学生の普段思いつくテーマは、1,000どころか、両手両足で足りる20位しかないかも。それでも、20の「ありがちテーマ」からどう切り込んで調べるかで、結果は変わってきます。

生徒は、a先生がおっしゃったような「載ってないものを探せ」という指令が好きではないですか?

a: 割と。

e: 提示されていないものに気づくというのは大切ですよね。

青: 調べたいテーマの資料がないことも多いですよね。

b: 「映画」「広告」「テレビ番組作成」のような、鮮度が必要なテーマの本はほとんどないし、あっても絶版になっている事も多いです。今動いているテーマは、本を集めるのが難しい。

青: 本以外の何かでフォローされていますか? ネットを使うというのがありますか?

c: 「アイドル」を調べている子には、大学の卒論を見つけて手渡しましたよね。

b: 「パチンコ」を調べる生徒がいる場合、「パチンコ 卒論」などでインターネットを検索すると、PDFで卒論が出てきますので、それを印刷して「これよりいいものを書け」とプレッシャーをかけたりして(生徒に渡します)。卒論には参考文献の一覧があるので、そこから資料を特定して手に入れたりすることもあります。

【現物資料の持つ力】

e: 以前、「泡」という面白いテーマを選んだ子がいました。石鹸の泡なのか、カニの泡なのか、とにかく泡の秘密が知りたいということで。石鹸の本とか洗剤の本ならあるけれど、「泡」は難しいなと思いました。自由研究なので、どんな時に泡が出るかを実験すれば OK なのですが。(その時) 資料を提供するだけでは、彼の満足につながらない、彼の興味の持続にはつながらないと思いました。現物を提供するの也不错だと最近では考えています。触るという感覚は、(現物を) 用意しないとできないことだと思うのです。読むだけでなく、触って考える。

b: ちょうど、星座早見盤や簡易望遠鏡なんかが欲しいと思っていました。(星座早見盤や簡易望遠鏡を) 本の形にして売ってくれていたら嬉しいです。本棚に収まるサイズで。耐久性があるとなお嬉しい。

d: ドイツのミュンヘン市立図書館に行った時、紙資料と現物や視聴覚系を一緒に排架している本棚を見ましたが、すごく楽しめました。こんな排架があるのかと。

e: 日本でも、学校図書館支援センターなどで、テーマに関係する現物資料を貸し出しているところがありますね。学校図書館のコレクション形成は、中心は本ですけど、そういうのもいいですね。

b: 昆虫のアクリル標本とかもあるといいですね。世界のコイン紙幣とか。

d: 魅力的な空間になりますね。恐竜の化石とか。

青: 博物館にはあっても、学校には博物館はないですからね。最近では、大学には博物館があったりしますけど。

d: それでも、現物資料が全部解説しているつまらないですね。「これはなんだろう」と言って調べるのが楽しいのでは。現物はきっかけでよいと思います。

青: 図書館に行くきっかけや、ディスプレイにするのはすごくいいですね。

【学校図書館のコレクション形成に影響を与える志向性について】

橋: 国際子ども図書館に配属されて以来、沢山の学校図書館を見学してきました。私がこれまでの業務の中で見知ってきた各種図書館 (NDL 東京本館、大学図書館、公共図書館) を踏まえて学校図書館を見てきて、学校図書館には大学図書館っぽいところや児童図書館っぽいところ、公共図書館っぽいところなど、色々な館種の要素が混ざっているなという印象を受けました。この「色々な」というのを、強引ですが 4 つに分けたのがこの志向性 $\alpha \sim \delta$ (次ページの「インタビューで提示した学校図書館コレクション形成に影響を与える志向性 (中間報告)」参照) になります。現場の方から見て、本当はそうではないとか、教えていただきたいのですが。

d: 具体的に、どこの学校はこの志向性が強いとかありますか?

橋: 児童図書館サービスの志向性 α は、公立校や東京の [私立女子中学 f 校] に強く出ていると思いました。東京子ども図書館が発信する情報をととても信頼している様子だったのが、そうかなと。志向性 β は、伝統のある中高一貫校や大学がある中高一貫校。特に、[私立男子中高一貫 I 校] が、大学図書館ホームページに掲載されている新着資料を見て選書をされていたりして、この傾向が強いと感じました。生徒や教員のリクエストを重視する志向性 γ は、どこの学校でも見られたと思います。先ほどの b 先生の 1 パーミルというお話も、この志向性に関連すると思います。マンガやライトノベルは別にしても、それ以外の資料はほぼ 100% リクエストに応えるという学校が多かったのですが、このリクエスト重視は、学校図書館独特かなと思います。大学図書館や公共図書館ではそこまでリクエストを重視しないと思います。最後に、OPAC にキーワードを付与したり、生徒が使い勝手をよくするデータ整備に力を入れている傾向は、情報リテラシーの育成につながるのかなと思います。志向性 δ にまとめてみました。

(参考)インタビューで提示した「学校図書館のコレクション形成に影響を与える志向性 (中間報告)」

※インタビュー調査では、学校図書館事例調査 (報告書第 3 章) のインタビュー実施時点での中間報告を参加者に提示した。

※報告書の第 3 章には、参加者の意見を受けて修正・再整理した最終版を掲載している。

- ✓ 訪問調査と情報源に関する補足調査によって、各校の学校図書館の状況や専任担当者のコレクション形成に関する考え方、授業での使い方、資料選定で用いる情報源等を明らかにすることができた。これらの結果と各校のコレクションを比較・考察すると、学校図書館のコレクション形成には、影響を与えている志向性 (要因) が複数あると推察された。
- ✓ この志向性を、下記 $\alpha \sim \delta$ の 4 つに整理した。(この他に、男子校/女子校/共学校の別も要因の一つに考えられるが、ここでは対象としない。) 実際の学校図書館では、これらの 4 つが様々な比率で組み合わせられて、各校のコレクション形成に影響を及ぼしていると推測される。

学校図書館のコレクション形成に影響を与える 4 つの志向性
<p><志向性 α> <u>児童図書館サービスの延長・発展</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ 読書材の選書に現れることが多い志向性。読書材は、本の中まで読んで判断している・ 選書の情報源として、東京子ども図書館や教文館ナルニア国の出版物に信頼を置く・ この志向性は全ての調査校で見られた。特に、勤続年数が高い専任担当者がある図書館や中学校のみを対象とした図書館で強い
<p><志向性 β> <u>大学図書館への知的継続性</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ 大学の教養学部につながる資料を揃えている (例: 岩波文庫等を全点購入している)・ 選書の情報源として、大学図書館の新着情報や新聞の書評欄を用いる・ この志向性は、歴史のある私学の中高一貫校の図書館で強い
<p><志向性 γ> <u>(公共図書館的?) 利用者ニーズの重視</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ 生徒や教員のニーズに応えることを重視している・ 図書館を使う教員の授業 (カリキュラム) に必要な資料を揃えることを意識している・ 選書の情報源として、生徒や教員のリクエスト、生徒が作成したレポートの参考文献・注記等を用いる。公共図書館のヤングアダルト向けホームページも参照する・ この志向性も全ての調査校で見受けられたが、ニーズに応える程度は各校の方針や予算によって異なる
<p><志向性 δ> <u>生徒の情報リテラシー養成の重視</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ データ整理 (OPAC への件名・キーワード付与) を重視・ 図書以外の資料 (新聞・雑誌・データベース等) の収集・提供を意識・ この志向性を明言する学校は少なかった (G 校のみ)。司書教諭が情報リテラシー関連の授業を行っている図書館で見受けられる

e : (志向性が色々あるのは) 学校図書館の役割について共通認識がまだない、という事だと思います。

d : 以前は、“この人が司書だから入った本” というのが多かったと思います。教員から「図書館は司書が好きな本入れているんでしょ」という声があって、それで、うちでは3票ルールを導入したり収集方針を作ったりしました。図書館としてどうあるべきかを決めるという意味もあったのですが、まずは、図書館は好きなことをやっているのではなく皆のためにある、という事を全面に出すために、ルールや方針を作りました。人が選ぶのものだから恣意的な部分があるのは良いのですが、お金の使い方という面では、あまりに恣意的な使い方をしてしまうと信頼されなくなってしまいますよね。

e : コレクション形成は、計画があって、それをやって終わりではなくて、過程やプロセスが大切だと思っています。図書館や司書だけがコレクション形成をやるのではなくて、学校や教師をいかに巻き込んでいくかという過程が必要だと思います。蔵書構成には、目に見える形で学校図書館の姿勢が表れるので、(学校全体を巻き込む)方法でやりたいです。先程、多様な意見を尊重するからこそ自分の意見が言えるというお話ありましたが、図書館がそうした教育を支援するという姿勢を持つなら、様々な意見の資料を置く、そういう資料が書架に並んでいて生徒が手に取ることができるようにすることを意識すべきだと思います。コレクション形成は、常に途中な感じがします。

d : 志向性は、学校自体のニーズに対応していると思います。(東京の) [私立男子中高一貫 I 校] の例で言えば、できる生徒さんが集まっている学校だということもあって、(生徒に) レベルの低いものは与えないという感覚があるのだと思います。そういう点が志向性に現れてくると思います。志向性αのフィクション重視というのは、利用者が学習で来るよりは読みたい本(フィクション)があって来る子が多いからではないかと。図書館において利用者として見えてくるのは、図書館に来る子になりますから。学校図書館がどういう形で学校の中に存在しているかによって、(志向性の比重は) 変わってくると思います。

e : (どの志向性を重視するか) 戦略は学校によって色々あると思いますが、それだけに特化するのではなく、図書館ならではの多様性だとか、色々な意見だとか、一つが全てではないとか、そういうのを担当者が分かってくることが大事だと思います。

青 : 色々という意味では、学校図書館には必要とされている資料を入れるという面がありますよね。学校は利用者が非常に限定されているから、先生が変わると(必要とされる資料が)コロッと変わるのがありますし、恣意的に変えようというのではなくても、図書館担当者の得意分野もかなり反映されてしまいますし。規模的にも1~2名でやっているのです。啓蒙的な意識を持って資料を集めるのが中心なのか、授業で使う資料を提供するのが中心なのか、(学校図書館ごとに)それぞれ主張としてあっていいし、それが明らかになってもいいと思います。それと、先ほどお話したように出版物自体にも問題があるから、出版状況も要素として入ってきます。また、どうやって調べ方を指導しているか、など学校図書館に付随するソフト面も入ってくると思います。本当は、学校自体のカリキュラムも関係してくるところですね。学校自体が、何に重きを置いてどういう教育をしようとしているのか。ここは私学の実務者ばかりなので、公立校の場合は少し違うかもしれませんが。

d : (山陰地方の) [公立共学中学 B 校] のコメントで、「あったらいいなでは本は選ばない」というのがありました、「あ、痛…」と思いましたよ。うちは予算があるから「いつか使うかな」と思って買うところがあります。

b : うちでは、使う生徒がイメージできない本は買わないようにしています。使う子の顔が浮かぶか、その子のレポートの参考文献の一覧にのるかが判断基準です。

c : 顔が浮かべば、サッカーの本は買うとか。

e : 学校図書館の蔵書構築を考える勉強会を企画していて、各校のNDCごとの貸出比率を調べたら、発

達段階（中学校と高校）より性差（男子校と女子校）の方が差がある結果でした。

青：男女差大きいですね。

【国際子ども図書館に開設される「調べものの部屋（仮称）」について】

b：今日この質問をしようか考えてきたのですが、国立国会図書館が「調べものの部屋」を作るに当たっての基本的な考え方というか、「調べものの部屋はこういうものだ」という青写真があるのでしょうか。学校図書館は、学校ごとに色々なベクトルがあって、（その学校が採用した）ベクトルに沿ってコレクションを作っている訳ですけど。

橋：国立国会図書館は文部科学省の下部組織ではないので、学習指導要領とか特定教科の特定の単元に依存しないものを考えています。つまり、教科単元よりも幅広い、どちらかという自由研究のような調べものを想定しています。どちらかと言えば、小学校の延長の調べ学習ではなく、答えは探し続けなければいけない…というような探究の心構えに少し気付くようなプログラムや部屋にできないかと思っています。「調べものの部屋」では、調べるということが一つ答えを探すことではなく、考え続けることなのだと感じられる体験プログラムが提供できればと。実現するのは、大変難しいとは思いますが…。

b：それを聞いただけで、今日来て良かったです。

青：具体的なイメージとしては、修学旅行で上野に数時間滞在する生徒さんや先生が、（図書館を使った探究活動を）少し体験して「これいいじゃない」となれないかなと思っています。

c：一遍に来たその数を相手しないといけないという事ですね。

青：修学旅行では、数人のグループで行動したりもしますね。博物館も図書館の近所にあるので、近隣の機関とも連携できないかなとも思っています。

橋：これは、このプロジェクトの研究会委員の方々と一緒に調査を進めてきて、徐々にできあがってきた青写真です。先ほどお話あった、現物を置くなどの「きっかけ」作りも大変参考になります。（「調べものの部屋」の青写真が）徐々に形になったのは、プロジェクトのおかげかなと思っています。しかし、本当の探究活動はすごく時間がかかる事なので、どうやって上野に来た 2, 3 時間だけで（探究の面白さを）実感してもらうかが難しい点ですね。上手く作ることができたら、役に立つプログラムになると思います。

d：分かる喜び、調べる楽しみが味わえると良いですね。調べる楽しみを感じるのは難しく、調べている最中（過程）は楽しめない。過程は、訓練や鍛練の期間です。（「調べものの部屋」で）調べて分かる喜びが実感できればいいなあと。

a：去年の夏、子どもたちと一緒に国際子ども図書館に行ったのですが、その時に僕、すごい知りたい事ができまして（笑）。図書館へ行く途中に「博物館動物園駅」の跡地がありますよね。京成線でしたか、もう使っていない駅。これ絶対、図書館へ来る子どもらが疑問に思うテーマだと思いますよ。探究プログラムをやるなら、博物館動物園駅は絶対テーマの一つになる！と思います。

皆：「博物館動物園駅」の体系表とか作ったりして。鉄道好きの子は必ずいるし。

青：短い間に効果的でいいかもしれませんね。

e：鉄道こそ、青山先生のおっしゃった、両手両足で足りる関心テーマの一つですね。

【再び、生徒の自由研究テーマについて】

青：生徒が最初に持つ関心テーマから、「それが好きならこれはどう？」みたいにシフトさせる場合があります。「あの本があったな」とか「使いやすそうな本だな」という意識から、「あの子に使わせられないかな」という風に考えて。テーマが面白い事と使える資料がある事は別です。例えば「ポプラディアネット」（ポプラ社）などのデータベースでも、（個別の項目を見ていくと）良く書いてある項目があれば、中学生には使いにくい項目もある。見えそうな項目のテーマに、生徒の関心がちょうど来る訳ではないし。生徒は20で足りるようなテーマしか最初は思いつかないけれど、ちょっと広げてあげれば、自分で（テーマを）広げられるようになって、かなり変わります。

b：私も、生徒に「紅茶」って言われると血圧は上がりますが（笑）、最初はにっこり笑って紅茶の本を差し出します。で、ちょっと時間を置きます。そして、一つのやり方としては、テーマにサブタイトルを付けさせる。紅茶の何なのか、と。探究は半年とか一年とか長いスパンでやりますから、自分がやりたくて選んだテーマではなく、「資料がありそうだから」とか「紅茶をやる私ってかわいいでしょ」とか、自分の好奇心とは違うところでテーマ設定していると、ある時が来ると生徒自身が「紅茶やめます」って言ってきます。その時に生徒が選んだテーマが本当です。でも、本人が自分の本当のテーマに気付くまでには、やっぱり紅茶の本が必要だと思います。

e：自分でテーマを考えると、最初「地獄」と言う子がいたり（笑）。でも、それは止めて次は「美人の変遷」と言ったり（笑）。でも「美人の変遷」もあんまり乗り気じゃなかったりしますよね。レポート書く直前になって、「やっぱり「男子中高生の〇〇」がいいなあ」と言ったりして。いかに早く、その子の本当のテーマを出せるか、ですよ。そしてその先は、そのテーマから広げる。調べてみて、分からない事が増えてきて混乱したり途方にくれたりしますが、そこを上手に手助けできればと思っています。

青：探究型の調べに慣れていない子の場合は、“選んだテーマをとりあえず調べてみる”というプロセスを経ることが必要ですね。探究に慣れてくると、「本当にやりたいのは何かな」と自分で考えられるようになります。でも、決めてみたものの、迷ったり止めたくなくなったりする事もある。やっているうちに自分の中で明確になってくるプロセスは必ずあって、ただ、授業としては、そこまでの時間をかけられるかという問題もあります。限られた時間ではお茶を濁す結果を出すしかなくて、生徒も先生も「調べ学習をしたけどパッとしなかったな」という感想を持つことになったり。もう少し時間をかけられて、やりたいテーマに辿り着けて、満足のいく何かができたら、一つの体験をしたということになると思います。「調べものの部屋」は、こうしたプロセスが良く見えてない一般の先生に対して、「こういう事をやると生徒は変わる」とか「そのためには、こういうものがが必要です」という事を見せられる空間にできれば。迷ったり失敗したりする事は、探究型の調べにはあって当然のプロセスだと知ってもらいたい。

【再び、「調べものの部屋（仮称）」について】

a：「調べものの部屋」は、修学旅行で来た生徒が少し深められる部屋ですよ？うちの学校では、修学旅行で行く長崎については、テーマを決めて1年間調べているので、長崎の本はかなり図書館に入っています。中学生が思いつく長崎関連のテーマは限られているので、そこは厚く（収集しています）。例えば、「ちゃんぽん」は必ず出ますが、「ちゃんぽん」の良い本なんてまず無い。この間良い本が出たので5冊位買いましたが。「カステラ」も、本は3冊位しかない。修学旅行で東京に来た中学生を想像すると、彼らが思い付くテーマはかなり限られると思います。「調べものの部屋」では、そのテーマの本を厚めに入れていけばよいのではないのでしょうか。本当に探究型とか深めていこうと思ったら、僕は1年かけてやっているけどそれが出来ているとは思わないし、その自信がないから絶対論文という言葉は使わない。修学旅行で一日やるのは無理だと思うので、「調べものの部屋」では、調べて分かった満足、でいいのではないかなと思います。更に言えば、「調べものの部屋」に来て「さあ調べなさい」と言っても無理だと思います。パスファインダー的なものを置いてはどうでしょう。先ほど言っていたシソーラス的なものを入れて。

b：NDCの話をして「10分類の中から1冊ずつ本を持ってきましょう」をやるとか。あるいは、生徒

が調べるテーマを出したら、そのテーマのパスファインダーが用意してあって、それを見ながら本棚をめぐって、本を見つけて、コピーして帰りましょうとか。これで修学旅行の宿題はバッチリだと。教育関係者に対しては、「調べ学習に使える本にはこういう本があるんですよ」という現物を見ていただくと良いですね。こうした啓蒙は、こういう所でしかできないから。生徒が思いつきそうなランキング上位のテーマを掲示して「このテーマは調べる本がありません」という意味で書架に透明のケースを入れて置くとか。そういう役割ができる場所だと思います。都内の博物館や美術館のパンフレットなんかも所蔵すると喜ばれるかもしれません。

青：網羅という話がありましたが、全体像を見せるためには網羅性は必要だけれど、役に立つ本があるという状態を全部じゃなくてもいいから作らないと、どの分野も中途半端という印象になって駄目だと思います。「この分野にはコレクションという感覚があるな」と見る人が見れば分かるように。

生徒が使うテーマのコレクションが、より充実してくるのが学校図書館だと思います。そして、中学校ではこういうテーマの本が使いたいのに、そうした本はあまり出版されない、というのが永遠の課題です。調べ学習はゆとり教育などに組み込まれていたもので、最近では、子どもたちが調べるために使う本を出版せざるをえない状況になってきているとは思いますが。セットものの調べ学習用資料が、20年前に比べれば、出版されていると感じます。例えば、池上彰さんが監修されたセット本とか。

橋：(次ページ [インタビューで提示した「表 延べ所蔵館数の多い著者上位 25 位 (中間報告)』を見て) 所蔵館数の多い著者の 4 位に「NHK 取材班」が挙がっていますが？

青：NHK の番組を本にしたものを、学校図書館が買っているから (4 位に挙がっているの) では。文章は易しくないのですが写真が多いので、文字だけの本よりは中学生が使うかなと思って、図書館に入れがちです。科学系だけでなく人文系もあって、総合学習的なものにも使えます。

b：修学旅行生には、「調べものの部屋」で見つけて読みたくなった本を、バーコードで読み込んで、タイトル一覧にして印刷したものをお土産にあげても良いですね。子どもたちには、帰ったらタイトル一覧を持って地元の公共図書館や学校図書館へ行くよう勧めてもいいし。

e：橋渡し的な役割もいいですね。

青：今現在、国際子ども図書館に地元の中学生は来ますか？

橋：現時点では、ほぼ来ていません。近くに区立図書館もあるので、その利用を減らしてしまってもいけないので、あまり積極的に勧めてもいません。

b：インターネットで「調べものの部屋」の蔵書が検索できると、学校で「浅草」で検索させて、そこでヒットした本を修学旅行の事前学習や事後学習で使うこともできますね。ヒットした本は、地元の公共図書館や学校図書館で揃えてもらえば良いです。現物は、「調べものの部屋」にもありますよ。みたいな。事前学習で使えたらアクセスが増えますよね。事前学習の成果 (レポート) を国際子ども図書館に送ってもらって、「調べものの部屋」で展示してもいい。

【全国 SLA の基準について】

青：全国 SLA (全国学校図書館協議会) の「学校図書館メディア基準」をどう思いますか。(次ページの [(参考) インタビューで提示した「調査校のコレクション数・各種基準値」「NDC 配分比」] を見て)

b：これは、何を根拠に基準値を算出しているのですか。

(参考)インタビューで提示した「表 延べ所蔵館数の多い著者上位 25 位 (中間報告)」

※インタビュー調査では、学校図書館の蔵書データの分析調査(報告書第4章)のインタビュー実施時点での中間報告を参加者に提示した。

※本表の内容は、報告書第4章の表4-4と同様である。分析調査の対象館13館分の蔵書データを計量的に分析し、所蔵館数が多いタイトルの上位を集計した結果である。

順位	著者	延べ所蔵館数	カバーしている タイトル数	延べ所蔵冊数	1タイトル当たりの 平均所蔵館数	平均 複本数
1	赤川次郎	775	476	872	1.63	1.13
2	学研	745	329	871	2.26	1.17
3	司馬遼太郎	732	420	1,002	1.74	1.37
4	NHK取材班	710	387	773	1.83	1.09
5	講談社	654	347	723	1.88	1.11
6	手塚治虫	535	277	876	1.93	1.64
7	旺文社	531	414	689	1.28	1.30
8	星新一	494	142	713	3.48	1.44
9	あさのあつこ	457	177	545	2.58	1.19
10	朝日新聞社	448	376	573	1.19	1.28
11	宮沢賢治	443	192	556	2.31	1.26
12	宮部みゆき	439	149	555	2.95	1.26
13	池上彰	429	226	524	1.90	1.22
14	石ノ森章太郎	404	140	551	2.89	1.36
15	東野圭吾	367	116	438	3.16	1.19
16	横山光輝	349	173	446	2.02	1.28
17	安野光雅	349	140	375	2.49	1.07
18	大岡信	335	179	428	1.87	1.28
19	重松清	328	115	466	2.85	1.42
20	井上靖	327	206	401	1.59	1.23
21	矢野恒太記念会	312	72	358	4.33	1.15
22	宗田理	300	142	400	2.11	1.33
23	村上春樹	296	125	409	2.37	1.38
24	アイザック・アシモフ	289	180	357	1.61	1.24
25	早乙女勝元	287	114	313	2.52	1.09

青：ちゃんと調べたことはないのですが、これはあくまで推測ですが、これと一緒に定められている数値で、一年間にどれくらい資料を買うべきかという数値が出ています。以前、この数値が多すぎるのではないかと思って、全国 SLA の理事の方に聞いてみた事があります。その時は、「10 年くらいで蔵書を一新するためには毎年全蔵書の 10%は買うべきだろう、プラス生徒一人 1 冊位は買ってほしい」という計算だと聞きました。そうすると、生徒が多い学校は俄然数値が多くなりますね。配分比については、どこかの時点で出版状況などから算出したのだろう、という印象を持っています。

e：基準の配分比を自校に配分比を比べて、極端に少ない類があれば少し見つめ直す程度には参考にしています。司書仲間に聞いてみたのですが、「これ何の意味があるの?」という意見がほとんどでした。意識して配分比を近づけている学校はなかったです。

d：2001 年に選書方針を作った際、自校コレクションの NDL 配分比を基準と比較してみたら、自校の 6 類が少なかったのが驚いた、という経験はあります。学校図書館はその時その時で重点的に買う資料があるので、これに合わないからと言って合わせようとは思いませんが、あくまでも参考レベルで。

青：資料をどこに分類しているかによっても、配分比は変わりますしね。

b：実は、NDC ごとに蔵書回転率（貸出数/所蔵冊数）を見る方が重要だと思っています。うちでは、類ごとに回転率を算出していますが、回転率が高いのは 5、6 類です。この類は冊数自体が少ないので。蔵書評価は、蔵書数より利用を目安にしています。歴史（2 類）は、動くテーマが固定していて実は利用は少ない。例えば世界史だと、（動くテーマは）古代エジプト文明、マリーアントワネット、三国志、海賊ぐらい。でも、産業（6 類）は、アパレル、鉄道、経営、コメ、ペットなど人気のテーマが沢山あるから回転率も上がってきます。

d：企業研究をテーマに選ぶ子が多いと 6 類が回転しますね。

a：逆に、うちは歴史が動きますね。僕が歴史好きというのものもあるかもしれませんが。SLA の基準はある程度は意味があると思います。経年変化を見ていく際の比較対象となりますし。うちは僕が入ったせいで 2 類が増えました。前任者は 930 が多かったです。宗教系では 190 以外が増えました。SLA の基準は、網羅性や全体バランスを見る一つのリトマス試験紙ではないかと思います。

橋：回転率を見て 6 類が高いと分かったら、そこを積極的に買うのですか？

b：（積極的に買うというより）結果的に増えてしまうという感じです。動きも速いので。

青：バランスも見ますね。

d：この類はわざと買っているから SLA 基準より多いのだ、と理由が分かればよいと思ってます。

橋：基準に合わせることはないのですか？

d：そう。でも基準に合わせるとしたら、こんなに買えますか？

青：出版状況にもよりますが。

d：0 類がこんなに多いのは疑問ですね。全集が入っているのではと思いますが。

青：新書を、全部 080 を付けて 0 類にしているとか。

a：うちの 0 類は、コンピュータ関係と図書館そのものの本が多いですね。

(参考) インタビューで提示した「表 調査校のコレクション数・各種基準値」「表 NDC 配分比」

※インタビュー調査では、学校図書館事例調査（報告書第3章）のインタビュー実施時点での中間報告を参加者に提示した。

※本表の内容は、報告書第3章の表表3-2(2)-1及び表3-2(2)-2と同様である。

表 調査校のコレクション数・各種基準値

学校	図書館の対象	図書 (冊) 【概数】	雑誌 (タイトル)	新聞 (タイトル)	学校図書館 図書標準 ^{*1}	学校図書館 メディア基準 ^{*2}		
						最低基準 冊数	最低基準タイトル数	
							雑誌	新聞
公立共学中学 A	中	13,000	3	1	13,120	29,950	28	5
公立共学中学 B	中	17,000	0	0	12,160	29,300	28	5
国立共学中学 C	中	22,000	16	1	10,720	27,740	25	4
私立共学中学 D	中	55,000	35	6	11,680	29,100	28	5
私立男子中学 E	中	32,000	40	3	14,880	32,260	28	5
私立女子中学 F	中	28,000	15	2	10,720	27,350	25	4
私立共学IS・中高一貫 G	幼～高	69,000	80	12	-	60,600	50	14
私立共学中高一貫 H	中高	41,000	43	4	-	71,300	50	14
私立男子中高一貫 I	中高	82,000	69	7	-	68,200	50	14
私立男子中高一貫 J	中高	79,000	120	5	-	61,100	50	14

*1 “学校図書館図書標準”. 文部科学省. (URLは本文脚注2を参照)に基づき、表2-(1)-1の各調査校の生徒数・学級数から算出した。

*2 “学校図書館メディア標準”. 公益社団法人 全国学校図書館協議会. (URLは本文脚注3を参照)に基づき、表2-(1)-1の各調査校の生徒数・学級数から算出した。A～Fの学校は中学校の計算式を使用。G～Jは中等教育学校の計算式を使用。

表 NDC 配分比

学校	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	その他 ^{*5}	
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
公立共学中学 A	4.0%	3.0%	4.0%	11.0%	11.0%	5.0%	2.2%	10.6%	4.8%	31.0%	5.0%	
公立共学中学 B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
国立共学中学 C	1%	2%	9%	9%	9%	6%	2%	7%	7%	49%	0%	
私立共学中学 D	8%	6%	15%	11%	12%	4%	2%	16%	5%	21%	0%	
私立男子中学 E	4.7%	3.2%	15.4%	9.7%	13.2%	5.1%	3.2%	12.4%	3.0%	27.4%	0.0%	
私立女子中学 F	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
学校図書館メディア基準 ^{*1} 中学校	6%	3%	17%	10%	15%	6%	5%	8%	5%	25%	0%	
私立共学IS・中高一貫 G ^{*2}	2.9%	3.9%	12.8%	14.2%	13.8%	5.2%	2.4%	8.0%	4.2%	29.8%	2.4%	
私立共学中高一貫 H	2.5%	8.4%	12.7%	12.2%	14.6%	6.9%	5.5%	13.4%	3.6%	19.8%	0.5%	
私立男子中高一貫 I	8.6%	5.4%	13.6%	15.0%	13.1%	3.6%	1.8%	8.7%	3.5%	26.5%	0.0%	
私立男子中高一貫 J ^{*3}	3.5%	4.3%	11.2%	14.3%	8.4%	4.1%	2.8%	8.1%	2.5%	31.8%	9.0%	
学校図書館メディア基準 ^{*1} 中等教育学校	6%	9%	15%	11%	16%	6%	5%	7%	6%	19%	0%	
出版点数 ^{*4} 1954-2010	3.5%	4.9%	6.6%	21.3%	7.9%	9.6%	4.4%	11.7%	2.4%	18.9%		
											児童書	学習参考書
											6.9%	2.1%

*1 “学校図書館メディア標準”. 公益社団法人 全国学校図書館協議会. (URLは本文脚注3を参照)より、「標準配分比率」を抜粋。

*2 コレクション中の洋書を除く和書40,000冊のみを対象にNDC配分比を算出している。

*3 J校の独自分類である「Y: 読み物」は9類、「J: 職業」は3類に含めた。

*4 本文脚注4を参照。

*5 「その他」の分類に含まれる資料は、J校では、阪神大震災・英語科ライブラリ・時事問題・絵本など。A校、G校、H校では、絵本など。

b: 他の国には、こういった基準はあるのですか？

橋: よく調べた訳ではないですが、こうした全国統一的な数値基準はあまり見かけないですね。この SLA の基準は、学校図書館が予算を要求する際の根拠材料として使うことを想定しているのではないかと考えています。だから、少し実際よりも多めの数値になっているのかと。

e: 新聞 14 紙が基準値ですが…。考えるだけで（実現は）難しいですね。

【電子資料とコレクション形成について】

青: うち半分英語なので新聞の紙数は多いです。英語の新聞や雑誌は電子版も買っていますし。英語の資料群は今どんどん電子化しています。英語圏やスペイン語圏の学校図書館は、ひょっとすると図書館という場所自体が無くなってしまって、電子図書館で済ませる所が出てきそうな状況です。教科書もどんどん電子化していますし。英語の雑誌には、紙なしで電子のみが出版されているものもあるので、そういうのを生徒にどう使わせるべきかという課題もあります。

d: 日本は、紙への愛着が大きいと思います。

青: アメリカでは、ライブラリアンの仕事自体が変わってきています。紙のコレクション形成は本を選んで並べることですが、英語の調べもの系資料はデータベースや電子本、電子雑誌に移行していて、それらはそれなりに調べには有用ですが、データベースなどの電子情報資源は、ProQuest などの会社が集めた複数タイトルが入ったパックを契約することです。つまり、図書館は（電子資料を）個別のタイトル単位では選べないのです。図書館が 1 点ずつ選んでコレクションを形成するのではなく、会社が提供するセットが使えるかどうかを判断して契約することになります。これまでやってきた、資料を選んで集めてコレクションを作っておいて、生徒にこのコレクションの中から調べなさい、というやり方とは全く違います。コレクション形成の仕事自体が変わってくるのです。

また、電子資料は利用方法もネットのそれと近いと思います。便利でワンクリックで調べられるけれど、弊害は、ヒットしないものは無いことになってしまいます。

e: 電子の世界はフラットだと感じます。概念の関係性や遠い近いが分かりにくいです。NDC で排架された書架の中を動き回れば距離感が分かるけれど、電子は操作が全部一緒で、調べていく過程に身体的な感覚が伴わないです。発達段階にある子どもにとって、電子だけでやっていて良いのかとも思いません。また、選んだからではなくデータベースにたまたま入っているからヒットする、これでいいのかなとも思いません。クリックして出てこなかった生徒には、きちんフォローする必要があると思います。

b: デジタルを使う人間は、デジタルで完結するのですか？インターネット上で見つけた論文は、印刷して読みたくならないのですか？

e: 最近はそのみたいです。PDF に直接書き込んだりして読んでいますし。慣れだと思えます。

b: アニメを卒論にしたい子がいて、クールジャパンの報告書を PDF で 70 枚位のものを見つけたのですが、そういう文書をデジタルで読む人はいるのですか？

d: 持ち運びする人は、端末一つで済むデジタルが有利ですよ。これからは、動かない人にも広まっていくのかもしれない。紙が好きな人はずっと紙を使うとは思いますが、インターネットが普及したように、（デジタル情報も）普及していくのかも。ただ、デジタル情報は多ければ多いほど、発信する人が一握りになるのではないかと考えています。Google でも、クリックされる情報がどんどん検索上位にいく仕組みなので、ヒット上位の情報しか見ないと、結果として特定の人が発信する情報しか見ないことになってしまうのが怖い。危険かなと思います。そこは教育の問題かもしれません。

青: 教育の中で、「紙の本のここに必要な情報がある」と教えるように、デジタルでもデジタル情報の

使い方や見極め方を教える必要があるということですね。

【「調べものの部屋」の事前学習用セットについて】

d：最近、分かる喜びが薄れている気がします。本もそうですが、端的に分かりやすくなってしまっていて、子どもたちは考えなくなってきたような…。だからこそ、誰も答えてくれない素朴な疑問、「博物館動物園駅」でしたか、そういうテーマと巡り合えれば面白がるのでしょうか。「Yahoo!知恵袋」などで簡単に教えてもらえる状況にあると“分かること”に重きが置かれにくいのかなと思ったり。

青：簡単には分からないという経験が必要なのに、（簡単に分からないと）子どもたちは面倒くさくなって止めてしまいますよね。

a：「面倒くさいから分からなくて良い」と考えてしまうのですよね。（子どもたちが）分からなくて良いと思うテーマ設定では駄目なのです。修学旅行で東京に来て、新しい所に来て、「博物館動物園駅」というテーマがあって、ここで調べられる、そういうのはとても良い流れだと思います。「分からなくてもいい」ではなくて、身近に感じているからこそ「分かった方が面白い」となります。

a：国際子ども図書館で国際理解をテーマにしたセット貸出しをしています、そういうのを作ればいいと思いますよ。

橋：博物館動物園駅セットとかですか？学校でやる事前学習用の？

a：そう。廃墟になった駅セットとか。先生方もそういうものがあつた方が乗られると思います。

b：民族博物館で、スーツケース教材を貸し出していますよね。ある国について学びましょうとあって、民族衣装とか楽器とかをセットにして貸し出しています。そういうものの、東京セットみたいなものがあるのもいいかもしれないですね。セットが返却できれば、場所も取らないし。

e：東京セット、いいと思います。

青：電子について言えば、ネットが嫌いな子も多いですね。検索戦略なくやると、欲しい情報が見つげづらいからだと思います。ぴったりのページが見つからないと嫌なのでしょう。本を探していても、そういう傾向はあります。今言っていたセット本のような事でも、かゆいところに手が届く本に実際に触れる事も一つの体験かなと思いました。ネットにしる、本にしる、使える情報が存在していて探し出せる、という事を体験させる。

【廃棄について】

青：廃棄基準は、全国 SLA が作っていますが、どうでしょう？各校で色々あると思いますが。

b：うちは、資料を積極的に書庫に移動したり除籍したりしてきました。主な理由はスペース不足ですが、開架は平成の本棚”にしたいという願いもあります。平成も四半世紀経っているので、なるべく昭和の本はなくして回転率をあげたい。古くても良い本もちろんあると思いますが、必要に応じて閉架から出すようにしたいと思っています。

青：子どもは古いと手に取らないですね。

e：古くても良い本はなるべく置いておきたいですけど、古くて汚い本があると逆効果なんですよ。分かっているのですが、（古い本は）抜きがたい…なので、悩ましいです。

a：うちでは、ここ 2, 3 年棄てていません。新しく書庫ができたので。

d: うちには 1999 年に、あまりにも茶色い本ばかりだったので、一端は全部書庫にしまったりしました。

e: もうそろそろあの頃に感覚を戻さないと…。生徒にとっては古臭い本が並んでいる書架になっているかもしれないです。

a: 新しく買えない分野もありますね。たとえば養蚕。岩波の科学ライブラリーのやつ 1 冊しかないので、古くても捨てられないですね。

d: 蚕糸業は、NDC の分類記号の一つを占めていますし。

青: 分類は無味乾燥のようできて、時代や社会を反映していますね。出版された本は、その時代に必要とされていた、または出版したかったもの。最近では出版されてもすぐには買えなくなる。いい本なのに、なぜすぐ買えなくなるのと思いますか。

b: 出版社が、3000 部刷って増刷はしません、という本の作り方をしているのだと思います。特にセットものはそうです。出た時に買わないと駄目。アニメーションの本でも、子ども向けの良い本がありますが、絶版です。これだけクールジャパンだ、輸出だと言っても、中学生に分かるようにきちんと説明された資料がないです。専門学校向けまでいけば、基礎的なちゃんとした本はありますが。こういうテーマは、どこかきちんとした出版社がしっかり作って、それを全国の学校図書館が買うことをしないといけないと思います。

青: 全国 SLA などが、こういう本を出版してほしいと出版者に伝えられる組織になればいいのですが。この本は学校で非常に役に立ちますリストを作って、それが上手く出版側へ伝われば採算は取れると思うのですが。

e: 出版助成というか後押しプロジェクトみたいの。お互いの利害が一致するといいですね。

【再び、所蔵が多いタイトルを見て】

b: 読書感想文コンクールの課題図書は、図書館に残りますか？

a: 残っていると思いますよ。この蔵書データ分析調査の「所蔵が多いタイトルリスト」(3 ページ) を見ても残っているし、『素数ゼミの謎』や『1 億百万光年先に住むウサギ』とかは課題図書ですよ。

c: うちでは結構人気の本ですよ。

a: いい本ですよ。でも課題図書じゃないと、絶対ひっかかってこない本だとも思います。

青: 過去の読書感想文コンクールの課題図書を洗い出すと、かなり重複しそうですね。

青: 『あのころはフリードリヒがいた』は教科書ですね。

e: うちには『きみの友だち』で読書会をやるので、6 冊くらい持っています。

青: (関東の) [公立共学中学 B 校] のデータは (同じ市内の) 学校図書館 4 校分入っているの、市内の学校で揃えて買うと冊数が増えているかもしれないですね。

【おわり】

a: そろそろ時間ですが、今日は滅多にできない話が色々できたので面白かったと思います。ありがとうございました。